

1. 共通テーマにおける取り組み

① 複合的な課題を抱える家族への支援

家族で課題を抱えこんでしまう事例が多く見られ、その介入には苦心する場合が多い。支援者がその家庭に介入するポイントを、エンパワメント堺より講師を招きで、まずは「気持ち」を理解し、一人ひとりの境界線を知る方法を学んだ(6月)。

② 世代や属性を越えたシームレスな連携・支援を考える

事例を用いたグループスーパービジョンにて 8050 世帯への支援介入を検討した。「支援に否定的な家庭をほどくヒントを探る～ストップ 8050～」(8月)。支援や障害に否定的だが援助の必要な家族に対し、各相談員がどんな工夫やアプローチをしたか出し合い、利用できる資源、あったらいいな資源も検討した。

複合的な課題を抱える家族にも起こる「ヤングケアラー」について、基礎的な知識と堺市での取り組みをユースサポートセンターより講師を招き、民生委員障害福祉委員会との共催研修として行った。

③ 医療的ケア児等の課題

(通学支援) 大阪府医療的ケア通学支援事業の利用者は増加しており、通学できるようになった児童も増えた。しかし事業者は増えず、送迎が1名ずつの対応になるため始業時間に間に合わない児童もいる状況。また、通学支援事業の医療的ケアには当たらないが、通学困難なケースがある。

(入浴支援) 障害児施設入浴は、看護師配置がないため医療的ケア児は利用できない状況。他市と比べ単価が安い。放課後等デイサービスの行う入浴支援は設備が整いにくく、また時間も限られるため需要に追いつかない。

(大学就学支援) 看護師配置ができるようになったが、時間は限られており、就学時間全時間は難しい。看護師に出す指示書などは自費になる。

(医療的ケア児の保育拡大に向けた支援のあり方) 医療的ケア児の保育園の受け入れにより、保護者が就業し続けることができる家庭も出てきたが、就学時に保護者の付き添いが数か月単位で必要になることがネックになってきている。

<取り組みから見えてきたこと>

- ・ 民生委員としては子どもの情報は個人情報との壁があると感じている。
- ・ 既存の放課後デイサービスには馴染みにくい子どもの居場所の拡大(不登校児、障害のある方のきょうだい、グレーゾーンの子ども、ヤングケアラー)。親が障害のある子の支援にも広がりがほしい。
- ・ 上記子どもの安心できる場で気持ちを表出し、人との距離感を学べる場所が必要である。
- ・ 医療的ケア児だけではなく、強度行動障害のある児童の障害児施設入浴の需要も確認された。
- ・ 医療的ケア児の入浴支援のニーズに選択肢が欲しい。そのために、放課後デイサービスの入浴設備の充実、障害児施設入浴への看護師の配置や貸し風呂、訪問入浴の児童への拡大などの意見が挙がった。

2. 西区独自の取り組み

■ 高齢者関係者会議・障害者自立支援協議会交流会

防災をテーマに3ヵ年、知る→体験→啓発を目標に取り組んだ。個別避難シートの策定を担当課より、実際に策定した支援者から2ケース、地域での取り組みを鳳南地区の防災士さんより話してもらった。3ヵ年で学んだ内容を地域に啓発、還元できるよう事務局でまとめ、訪問時に使え、減災を意識できるシートを作成中である。

■ ヘルパー交流会

世話人会では様々な現場からの課題も集約。コロナ禍、ヘルパー従事者数が減り、また交流機会も減ったことよりストレスの解消法を学ぶ。こころもからだも元気になる「ヨガインストラクターによる簡単ストレッチ」と日頃の困りごとを皆で話す会を久々に行った。